

『キテレツ絵画の逆襲「日本洋画」再発見』のデザイン

A5判・並製／新潮社／2025年9月刊



新潮社

キテレツ絵画の逆襲

「日本洋画」再発見

三浦篤
森村泰昌



オリジナリ
41

Originally
December
2025

『キテレツ絵画の逆襲
「日本洋画」再発見』のデザイン 1

『実さえ花さえ』のデザイン 5

展覧会『お父さん お母さんへ
ハンセン病療養所で書かれたある少年の手紙』
のデザイン 6

思い出のクリフォード 10

日日読書 10

メモランダム・本のデザイン 11

昭和残照 12

N'S COLUMN 13

トキドキ漫画 14

MY KID'S DIARY 15

魚の環世界 16

三浦崑 みづらあし
1907年、島根県生まれ。大原美術館館長、東京大学名誉教授。
国学院大学文学部教授、専門は西洋近代美術史、仏教美術史。
著書に『上野の西洋美術』、『上野の西洋美術史』など。
移り住む美術、ジブ・システム、ラフ、日本近代美術――
大土人の印象と意識を講義する。

森村泰昌 もりむつやすむ
1911年、大府府生まれ。『国画的傑作』で知られる美術家。
ギョム・ウー・ロ・アン、デュー・クレイ。
2005年10月7日、11月1日に脳梗塞を患い、死去。
『アスルスの剣』、銅像。『美術・文学』首肯する、出づる。『民間開



正統とされる西洋美術史から見れば、それらは奇矯なもので、不思議なもの、場合によっては無様で卑劣さしもの、つまりは「キチツツ」である、と感ぜられたかもしれないが、実を返せばそれは既成の枠組みに、おさまらぬ切なめ表現だからその言われは野生の思考としての驚嘆すべき「キチツツ」性でものたとは言えないだろうか。

森村泰昌

「ブローグ」なまきキチツツ絵画なのか？より

高木樗牛	への上	古田亮	黒田清輝	功罪	黒田清輝	功罪
山本芳翠	の詠り	日比野克彦	高橋田	龍庭美香	高橋田	龍庭美香
中村彝	の受寄を創造	荒瀬清造	浅草草子	戦へ	浅草草子	戦へ
そして戦へ	戦へ	木下直之	日本に裸体画は必要か		日本に裸体画は必要か	
東西洋画対決	田中淳	横井節也	前衛絵画の行方	弘中智子	前衛絵画の行方	弘中智子

キテレツ絵画の逆襲

「日本洋画」再発見

三浦篤 森村泰昌

異文化との
真剣勝負！

新潮社

日本
西洋
型破りな美を
目撃せよ！

キテレツ 絵画の逆襲

「日本洋画」再発見

三浦篤
森村泰昌



近代洋画を愛する一人が
ゲストたちと繰り広げた、
それ自体キテレツな討論集。
奇妙な混乱と違和感がいま
独自の輝きに反転する。

新湖社

【カバ】表
岸田彌生（童女舞臺）部分 1924
本多錦吉郎（羽衣天女）部分 189
【カバ】裏
小牧源太郎（ラディオリア）1940

書 名は森村泰昌さんによるもの。その名の通りキテレッズで、
なおかつ品のある装幀にしてもらいたく、赤波江さんと
日下さんにお願いました。

題字をヨコカクさんによる書き文字にすることになり、そのむね営業部に伝えたら、『『キテレッズ大百科』の題字と似ないようにしてほしい。あ、でもそんなこと言ったらデザイナーさんに怒られるか』と。でも赤波江さんならともかく、日下さんのほうは世代的にあの藤子・F・不二雄原作のアニメを知らず、偶然の一致ということもないことはないなと思い、メールしたところ、「えー、子供の本を作ってるわけじゃないですよ。芸術ですよ」と怒られた(泣)ものの、刊行後にXで「題名、装丁、内容。それら全てに惹かれる」とのポスト(ジュンク堂書店難波店公式ツイッター)を発見し、ほくそえんだことでした。

新潮社 米谷一志

キテレツ 絵画の逆襲

三浦篤
森村泰昌

本文扉

タイトルレタリング ヨコカク

表紙

表紙と各章扉の写真
は筒口直弘さん



力 タカナの「キテレツ」は、ゴシック体をベースにしつつ、立方体のような起筆を加えることで、すこし風変わりな印象になるようまとめました。4文字のうち最初に形が決まった「テ」を軸に他の文字を作っていきましたが、「ツ」に苦心した記憶があります。「絵画の逆襲」では、日下さんと赤波江さんから共有いただいた豊富な資料の中から、赤瀬川原平さんの異形の明朝体を引用しています。手書きが当たり前だった世代の文字を見ると、手作業の圧倒的な蓄積が感じられて、いつも感嘆させられます。わたし自身にとっても大きな学びのあるタイトル制作でした。



講談社文庫

1959年、大阪府生まれ。2008年、小説現代長編新人賞奨励賞、2014年『恋歌』で直木賞、『阿蘭陀西鶴』で綿田作之助賞。近著に『どら蔵』『アロリアンサエテ』など。

朝井まかて

無我夢中はずっと続いている。

私 が江戸の園芸に夢中になったのは四十代も半ば過ぎ、小説を書きたいのに書けない自分を持って余していた頃のことだ。いや、もしかしたら江戸の園芸を題材にすれば書けるかもしれないとお尻をまくって挑み、これが第三回小説現代長編新人賞奨励賞を受け、『実さえん花さえん』でデビューすることができた。すべての運を拾い集めた心地だった。とはいえ、デビュー後が順調だったとは言えない。売れず注目されず、次作の執筆に苦しんだ。

時を経て、このデビュー作の文庫新装版を出していただけることになった。装幀で希望したのは、江戸の花をデザインしてほしいということ。私の望みは、酒井抱一たちの植物画でかなえられた。桜と朝顔、つわぶきの美しさを目にするたび、ひたすらだった自分がよみがえる。今も、小説がただただ好きで書いている。無我夢中はずっと続いている。

『実さえん花さえん』のデザイン

講談社文庫／2025年4月刊

章扉(その1、その7)
扉裏は画家のプロフィール



8-32 酒井忠房(江戸の園芸家)
1910年 京都府立美術館蔵
8-33 酒井忠房(江戸の園芸家)
1910年 京都府立美術館蔵

「私」が江戸の園芸に夢中になったのは四十代も半ば過ぎ、小説を書きたいのに書けない自分を持って余していた頃のことだ。いや、もしかしたら江戸の園芸を題材にすれば書けるかもしれないとお尻をまくって挑み、これが第三回小説現代長編新人賞奨励賞を受け、『実さえん花さえん』でデビューすることができた。すべての運を拾い集めた心地だった。とはいえ、デビュー後が順調だったとは言えない。売れず注目されず、次作の執筆に苦しんだ。

時を経て、このデビュー作の文庫新装版を出していただけることになった。装幀で希望したのは、江戸の花をデザインしてほしいということ。私の望みは、酒井抱一たちの植物画でかなえられた。桜と朝顔、つわぶきの美しさを目にするたび、ひたすらだった自分がよみがえる。今も、小説がただただ好きで書いている。無我夢中はずっと続いている。

目次

プロローグ なぜ半裸で描くのか 異文化との出会い	1
第一章 異文化との出会い	15
第二章 異文化との出会い	33
第三章 異文化との出会い	49
第四章 異文化との出会い	67
第五章 異文化との出会い	83
第六章 異文化との出会い	101
第七章 異文化との出会い	119
第八章 異文化との出会い	137
第九章 異文化との出会い	155
第十章 異文化との出会い	173



その7
日本に裸体画が必要か
(左) 蔵屋美香 (中) 蔵屋美香 (右) 蔵屋美香



その1
異文化との出会いのほほえみ

本文

今回初めて、企画展発行物のデザインをBGXに依頼した。

チラシ・ポスター、図録のメインイメージの撮影では、手紙の内容・物量が伝わるように手紙を効果的に重ねていただき、タイトルも見る者を引き付ける形にデザインしていた。

収集した手紙の一部は、綴られている関係で2頁目以降を展示できないものもあった。それらについては、BGXが補正をした図録用の図版から複製を作成した。複製は、現物の手紙といっしょに並べてもその色がなく、来館者の中にはその違いに気づかない方もいた程、精巧なものとして仕上げていただいた。

色校正では細部に渡り確認をいただいたが、非常に丁寧な仕事ぶりであり、その高い技術力に圧倒された。

刷り上がってきた企画展図録を手にとった喜びは、未だに忘れられない。

2025年度企画展「お父さん お母さんへ ハンセン病療養所で書かれたある少年の手紙」は12月27日まで開催している。ぜひ、多くの方にこの図録（無料）を手にとっていただきたい。

国立ハンセン病資料館事業部事業課
主任学芸員 田代学

図録表紙(表1・4)

お父さん お母さんへ

ハンセン病療養所で書かれたある少年の手紙
国立ハンセン病資料館2025年度企画展

この企画展で展示するのは、療養所へ入所した少年が、家族へ書いた手紙です。
手紙には、家族と引き離れた少年の思いが詰まっています。
そのうち青森県根城町の中学生時代から、長崎県南島の島立高等学校新田家時代の7年間(1963～1967年)に書いた13点を選んで展示します。
隔離された世界で綴られた手紙を通して、今なおハンセン病回復とその家族をとりまく偏見・差別について考えていただけたら幸いです。



長崎県根城町で過ごした高校時代の風景 2000年(平成12)年頃 画に彩色転写 (制作) 柳保 額入装

図録表紙 手紙選り取り

隔離された少年が家族へ書いた手紙

◇2025年9月27日(土)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月1日(木)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月2日(金)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月3日(土)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月4日(日)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月5日(月)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月6日(火)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月7日(水)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月8日(木)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月9日(金)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月10日(土)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月11日(日)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月12日(月)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月13日(火)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月14日(水)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月15日(木)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月16日(金)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月17日(土)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月18日(日)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月19日(月)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月20日(火)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月21日(水)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月22日(木)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月23日(金)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月24日(土)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月25日(日)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月26日(月)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月27日(火)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月28日(水)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月29日(木)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月30日(金)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年10月31日(土)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年11月1日(日)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年11月2日(月)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年11月3日(火)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年11月4日(水)

14時～15時(開館13時30分)

◇2025年11月5日(木)

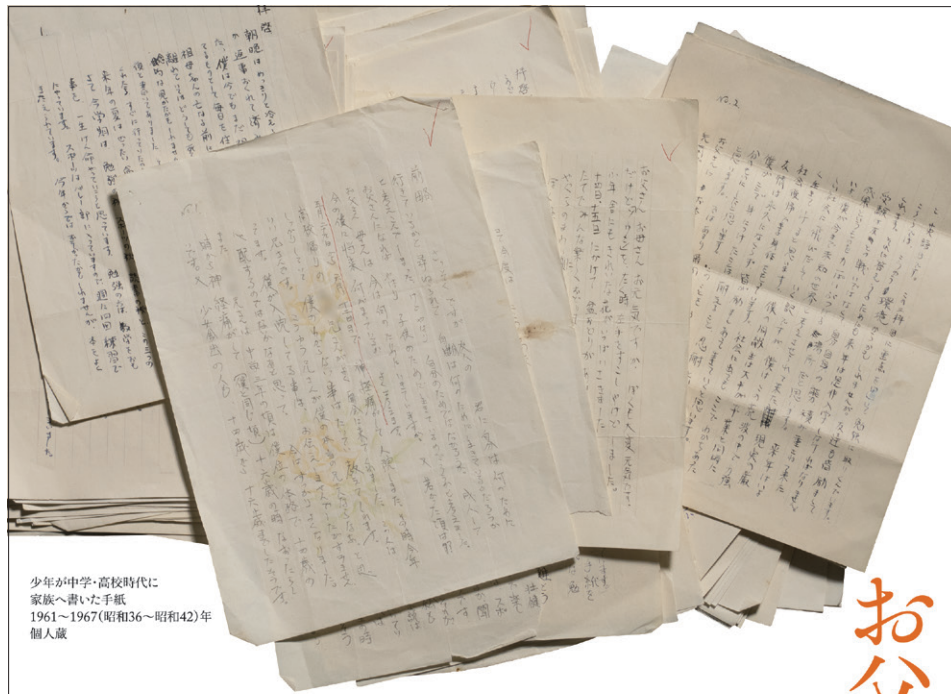
14時～15時(開館13時30分)

◇2025年11月6日(金)

14時～15時(開館13時30分)

お父さん お母さんへ
ハンセン病療養所で書かれたある少年の手紙

チラシ裏



少年が中学・高校時代に
家族へ書いた手紙
1961～1967(昭和36～昭和42)年
個人蔵

2025年9月27日(土)▶12月27日(土)
国立ハンセン病資料館 1階ギャラリー

〒189-0902 東京都東村山町青葉町4-1-13 Tel. 042-396-2909

開館時間 9時30分▶16時30分

休館日 月曜(月曜が祝日の場合は開館)および「国民の祝日」の翌日にある平日

入館
無料

ギャラリートーク 14時▶14時40分

◇10月12日(日) ◇10月18日(土) ◇11月1日(土)

◇11月9日(日) ◇11月15日(土) ◇11月29日(土)

◇12月7日(日) ◇12月21日(日) ◇12月27日(土)

企画展を担当学芸員が解説します。

定員は各回30名、お集まりの人数で時間を

ずらしていただく場合があります。

★の日はとも向け解説となります。

団体向けギャラリートーク

10名様以上、30名様以下の団体向けの

ギャラリートークを会場で実施します。

お申込みは下記にお問い合わせをお願いします。

◇見学希望日の1週間前までにお申し込みください。

◇都合により日時・内容等のご希望に添えない

場合がございます。予めご了承ください。

〈お問い合わせ先〉

国立ハンセン病資料館 事業部事業課

田代学(担当学芸員)

企画展HP

The National Hansen's Disease Museum

企画展HP

国立ハンセン病資料館2025年度企画展

ハンセン病療養所で書かれた
ある少年の手紙

国立ハンセン病資料館2025年度企画展

展覧会『お父さん お母さんへ
ハンセン病療養所で書かれたある少年の手紙』のデザイン

A4チラシ・A1ポスター・B1ポスター・A4版図録



本企画展で

ハンセン病の歴史と現状について、最新の研究成果や患者の体験談などを紹介する。また、ハンセン病患者の権利と差別の歴史についても詳しく解説する。

ハンセン病は、かつては「癩病」と呼ばれ、社会から孤立を強いられていた。しかし、近年の研究により、その原因と治療法が明らかになり、社会復帰の道が開かれた。本企画展では、この歴史を振り返り、今後の社会への取り組みについて考える機会を提供する。

本企画展で

ハンセン病患者の生活と社会との関わりについて、最新の研究成果や患者の体験談などを紹介する。また、ハンセン病患者の権利と差別の歴史についても詳しく解説する。

ハンセン病は、かつては「癩病」と呼ばれ、社会から孤立を強いられていた。しかし、近年の研究により、その原因と治療法が明らかになり、社会復帰の道が開かれた。本企画展では、この歴史を振り返り、今後の社会への取り組みについて考える機会を提供する。

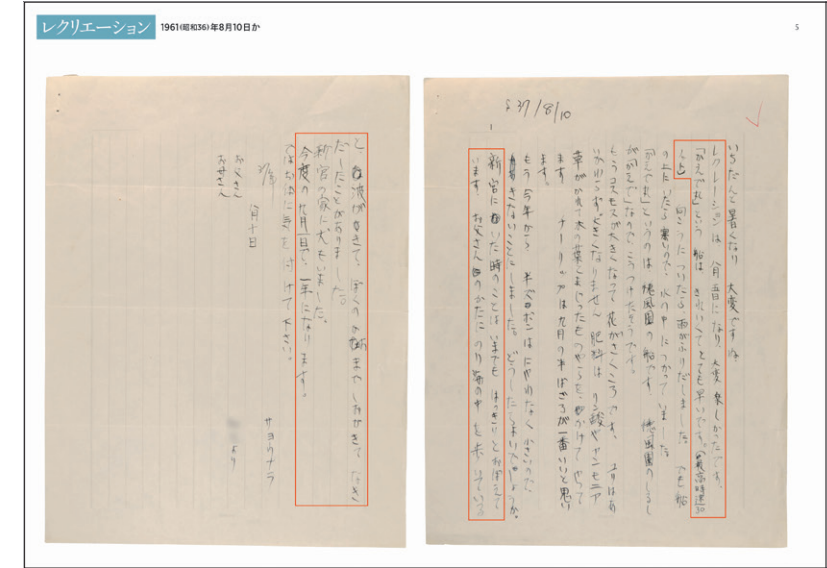
本企画展で

ハンセン病患者の生活と社会との関わりについて、最新の研究成果や患者の体験談などを紹介する。また、ハンセン病患者の権利と差別の歴史についても詳しく解説する。

ハンセン病は、かつては「癩病」と呼ばれ、社会から孤立を強いられていた。しかし、近年の研究により、その原因と治療法が明らかになり、社会復帰の道が開かれた。本企画展では、この歴史を振り返り、今後の社会への取り組みについて考える機会を提供する。

図録本文

展示と映像用に描かれた岩井友子さんのイラストレーションを図録にも。やさしい色とタッチで、療養所での暮らしなどが描かれています。手紙や解説のほかに、手紙からの引用の図表などもあり、それぞれを読みやすく、分かりやすくすることを心がけました。巻末の解説には、私たちからの提案で、13カ所ある全国の療養所の地図を。地図は、沢知恵さんの新刊『あなたがたの島へハンセン病療養所と私』（岩波書店）から流用させてもらいました。（赤波江）



教師への批判、社会への反発 1963(昭和38)年5月12日

ハンセン病患者の権利と差別の歴史について、最新の研究成果や患者の体験談などを紹介する。また、ハンセン病患者の権利と差別の歴史についても詳しく解説する。

ハンセン病は、かつては「癩病」と呼ばれ、社会から孤立を強いられていた。しかし、近年の研究により、その原因と治療法が明らかになり、社会復帰の道が開かれた。本企画展では、この歴史を振り返り、今後の社会への取り組みについて考える機会を提供する。

中学生時代のハンセン病の症状と治療に関する手紙

ハンセン病の症状と治療に関する手紙。ハンセン病患者の権利と差別の歴史について、最新の研究成果や患者の体験談などを紹介する。また、ハンセン病患者の権利と差別の歴史についても詳しく解説する。

ハンセン病は、かつては「癩病」と呼ばれ、社会から孤立を強いられていた。しかし、近年の研究により、その原因と治療法が明らかになり、社会復帰の道が開かれた。本企画展では、この歴史を振り返り、今後の社会への取り組みについて考える機会を提供する。

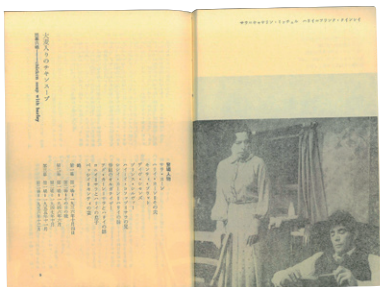
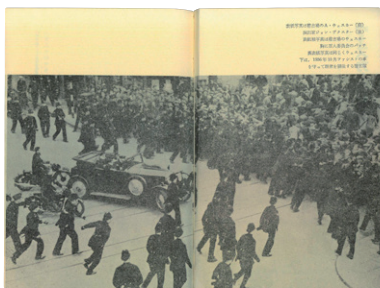
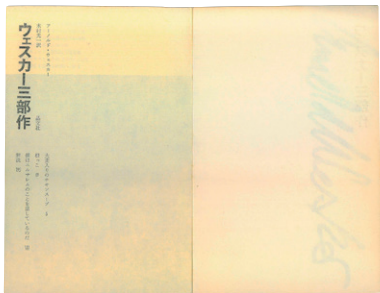
勝彦は、自身のハンセン病の症状について母親へ、

突然、

勝彦の友人の言葉

勝彦の友人の言葉。勝彦の友人の言葉について、最新の研究成果や患者の体験談などを紹介する。また、ハンセン病患者の権利と差別の歴史についても詳しく解説する。

ハンセン病は、かつては「癩病」と呼ばれ、社会から孤立を強いられていた。しかし、近年の研究により、その原因と治療法が明らかになり、社会復帰の道が開かれた。本企画展では、この歴史を振り返り、今後の社会への取り組みについて考える機会を提供する。



メモランダム・本のデザイン 32

ウエスカー三部作 その4 日下潤一

大きな 文字と小さな文字をそろえる時は、前回の錯視だけではなく、サイズの違う文字は小さい方が仮想ボディと字面の空気が狭いので、大小ではその差が出ることを考える。

表紙のタイトルスペースの白の分量は、同時期にデザインされた『ウエスカー全作品1』（カバー）とでは、『三部作』が広い。『全作品』は絵柄（白抜き42）がスペースを占める。この『三部作』のタイトル文字2行の背までと写真とのアキは、均等ではなく背の側（右）をあけている。写真とのアキの倍なのに、それが気にならない。

表紙と見返しは色紙を使わず、本文用紙に近いクリーム色系のすこし厚い紙。まず大きく右にウエスカーのサインだけの見開きがあり、目次もかねたシンプル扉につ

づく。文字は小口側に大胆にさせている。右頁は白で、その次の見開きは（1936年ファシストの車を守って群衆を排除する警官隊）のキャプションのつく写真。1936年10月4日、オズワルド・モズレーの率いる英国ファシスト連合がロンドンのイースト・エンドを行進しようとして、反ファシスト派との大規模な衝突が起きた。〈アーノルド・ウエスカーは、一九三三年、ロンドンのイースト・エンドの貧民街に生まれた。父親はユダヤ系ハンガリー人の仕立屋、母はロシア人で、彼は貧困のうちに幼年時代を過ごした。当時のイースト・エンドは、ユダヤ人をはじめ、アイルランド人や、追いつめられた貧民が集まっており〉（巻末の解説）。

次の見開きは「大麦入りチキンスープ」

の扉。右頁に上演シーン。左頁にタイトルと登場人物と時。

朝日新聞の文化欄「語る―人生の贈り物―」の連載インタビューで津野海太郎さんがこの本を語っている。〈そこで私が最初につくった本が、英国の若い劇作家ウエスカーの戯曲。木村光一訳の三部作で「晶文選書」というシリーズを始めた。英国労働者階級の「怒れる若者たち」の息づかいを20代の一人として伝えたかった。表紙はね、稽古場のウエスカーたちの横長のモノクロ写真をタテに配置した大胆なもので、平野甲賀の装丁がカッコいいと評判になった。平野は私と同じ年〉（そこというのは小野二郎と中村勝哉が立ち上げた晶文社）。今も古びないシンプルで端正なデザイン。本文も行き届いている。平野甲賀、26歳。

森英二郎 思い出のクリフォード 24

カーペンターズやカーメン・マックレー、アレサ・フランクリンなどたくさんの人がカバーしている名曲「ア・ソング・フォー・ユー」やジョージ・ベンソンの大ヒットで知られる「マスカレード」を作ったレオン・ラッセル。ミュージシャンとしても以前ここに描いたジョー・コッカーの「マッド・ドッグス&イングリッシュメン」のプロデュースをしたり、ジョージ・ハリスンとシタール奏者ラヴィ・シャンカールが主催し、ボブ・ディランやエリック・クラプトンなども参加していた「バンガラデシュ難民救済コンサート」でも一番カッコ良かった。あの頃、レオン・ラッセルはぼくにとってはスーパースターでした。

そう言えば「スーパースター」というこれもカーペンターズのカバーで知られる歌をレオン・ラッセルは友人のボニー・ブラムレットと作っています。

もり・えいじろう 1948年、京都府生まれ。関西のタウン情報誌「プレイガイドジャーナル」の表紙、野外コンサート「春一番」ポスター、『荷風と東京「断腸亭日乗」私註』（川本三郎著）、絵本『おとうさんのうまれた うみべのまちへ』など。



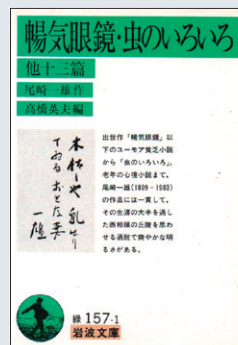
レオン・ラッセル Leon Russell
1942-2016

おおい・よしとか 1974年、京都府生まれ。京都嵯峨嵐山にある古書店 London Books店主。文芸書を中心に、人文書、美術書、絵本、サブカルチャーなどを扱う。観光客と地元の人に支えられ営業を続ける。

日日読書 大西良貴

38

London Books
616-8366 京都市右京区嵯峨天龍寺今堀町22



十代の頃から私小説を好んで読み続けているが、尾崎一雄もその一人。「暢気眼鏡」に始まるユーモア貧乏小説は、十歳以上年下の奥さんの天真爛漫さと、それに半ば閉口しつつ救われてもいる主人公の有様に惹かれる。いかにも大家然とした嚴かさの師の志賀直哉に比べると、ザックバランでおおどかな筆致。

尾崎は若い頃の貧乏に加え、中期には大病を患い長い療養生活を送る苦勞をしたが、八十過ぎまで生きた。自然豊かな相模で、木々や生き物ばかりか道端の石ころにも親しみを覚える暮らしぶりを読むと、なんとなくこちらの命も延びる心地がする。人間のさかしらへの嫌悪も時々噴き出すが、それを声高に主張することはなく、日常の中で実感したことばかりを綴っている。

小学生の頃、ちばあきおやはき悦巳のマンガに親しんだように、白米のように飽きの来ない日常世界という、自分の生来の好みに合うものだったのだろう。

尾崎一雄
『暢気眼鏡・虫のいろいろ』
岩波文庫／1998年

――〇二五年三月初めだった。渋谷から乗ったみなとみらい線の電車を中華街駅で降り、地上に出た。

そこでバスを探せばよかったのだが、横浜の地理感覚に欠けた私は南と思われる方向に歩いた。本牧は遠かった。そのうえ目当ての施設はわかりにくい場所にあり、三階建ての入口には名称が小さくしめされているだけだった。それはそうだろう。ホスピスは自己主張をしない。

私は旧知の友、白石マリを見舞いに行った。彼女は広いひと部屋ベッドで横になっていたが、思いのほか元氣そうだった。「やあ」と私がいうと、彼女も「やあ」とこたえ「遠いところ、ご苦労さん」といった。痩せたみたいだが、なにもと痩身だったから、それほど目立たない。

お見舞いに持参したチョコレートを食べるかと尋ねると、うなずいた。彼女は甘党ではなかったはずだが。一個食べて、もうひとつ頂戴、といった。私はうれしかった。

「明後日、学校の友達が何人かで来ると思っている」と彼女はいった。「いちおう、誕生日だからね」

それはそれは。「あんまり弱ってないでしょ」と彼女はいった。「とくに不満はないのよ。とくに不安もない」

白石マリは同じ学科の一学年上で、一九七〇年には四年生だった。当時芝居をやっていた。

無邪気

にずっと映画を観ていた。映画誌を熟読して、名監督や女優や名作の評価を鵜呑みにしていた。

業界に入って名監督の凡庸さや女優の正体を知った。名作の裏話も耳にする。タイトルが出ている脚本家が書いたとは限らないと聞いて驚いた。あれもこれもそうだと言う。今でも渋谷の公共放送のドラマのいくつかは、「脚本協力」とタイトルされた人が実質執筆している。名前を出したら自分で書けよ！

映画『ゴッドファーザー』（72）の製作秘話を描く評判のアメリカのテレビドラマ『ジ・オファ―（全十話）』（22）は配信で大評判になり、BSでやっと放送されたので観た。あの時は毎週日曜日夜二話ずつ流されたが、放送が待ち切れなかった。波乱に満ちた映画製作の舞台裏を飽きさせず見せる。

製作にも加わるプロデューサーのアルバー・S・ラディの記憶から物語化された。ラディと上司ロバート・エヴァンス、秘書ベティ・マツカート（女優がいい！）らがマフィアに、パラマウント上層部に、スタッフやキャスト相手に、次々起きる難題に取り組む。当然ラディの活躍が主だが、俳優出身でカリスマ性のあるエヴァンスと有能なベティのキヤラクターが生きている。

マフィアが映画化阻止の横槍を入れて来るが、ラディは脚本を読ませる。原作者マリオ・プーゾと監督フランシス・フォード・コッポラの脚本は冒頭とラストしか出ていない。

私は、彼女が所属していた文学サークルの部屋を使わせて欲しいと橋渡しを頼んだ。私は演劇研究会の一員だったのだが、その「新劇」劇団のコピーのようなやりかたが不満で、劇研以外のメンバーを集めて芝居をつくった。それが「分派活動」だと非難されて部屋を追い出され、台本を謄写版で印刷する場所も、メンバーがたむろする場所も失っていた。

彼女の紹介で会った文学サークルの部長「サトケン」は、いいよ、と気軽にいった。

どうせ文学どころではない時世だし、「分派活動」大いに結構。こちらが大家だと認識していてくれさえすれば、自由に使っていよいよ。

彼女の文芸作品は読んだことがない。一作も書かなかったのではないと思う。その彼女は翌年卒業して、外資の会社に勤めたと聞いたきり連絡は途絶えた。若い頃の知り合いとはそんなものだろう。「サトケン」は、後年ラテンアメリカ文学の翻訳家になった。

それから四半世紀あまり、一九九〇年代の終わり頃、突然彼女から連絡があった。電話は出版社に聞いたという。まだ個人情報開示に鷹揚な時代だった。

彼女はいった。「とくに用事はないけれど、イヤでなければチョー久しぶりに会おうじゃないの」

私はイヤでなかった。五十歳になっていた彼女は、夫といっしょにＩＴの会社を経営していた。社業は順調だったが、問題は別のところにあった。まいったわよ、と彼女は溜息

い。ラディは間に別の脚本を挟んで綴じ渡す。マフィアは読みもせず、脚本から「マフィア」の文字を外せとの条件のみで映画化を許可する。

製作のパラマウント上層部はマフィア並みに厄介だ。予算の削減、無名俳優アル・パチーノの降板要求、撮影監督ゴードン・ウィルスの画が暗いと文句ばかりつけて来る。

コッポラとウィルスは現場で大喧嘩する。お前の照明プランでは俳優が自由に動けないとコッポラ。ウィルスは、決められた位置で芝居するのが俳優だと負けてない。

主演マーロン・ブランドがプーゾの手紙に出演を快諾、ラディらが自宅を訪れる。ブランドはティッシュを丸めて両頬に詰め、即興でドンを演じてみせる。冒頭シーンの撮影では、拾った野良猫を抱いて演技するブランドに誰も注意出来ない。ブランドの好物ぶりが痛快だ。

有名な馬の首のシーンは、美術部が用意した作り物をコッポラは気に入らないので屠場から入手した……ヘー、そうだったの？

彼女に会いに行った①

関川夏央 昭和残照

三十一



とともにいった。夫に女性がいて、子どもまでつくっていたのよ。

彼女自身に子どもはいなかった。できなかったのかも知れない。夫の身边は、探偵事務所に依頼した調査でわかったという。

そんな込み入った事情を、まるで利害のからまない遠い昔の知り合いで、エーツ探偵事務所かよ、と驚くばかりの私のようなものに話して気を晴らしたかったのだろう。

しばらくのちの二〇〇一年、私は皮膚がんの手術を受けるために大きな病院に短い入院をした。いちおうがんはがんなんだが、たいしたことのないがんだ、と伝えてあったのに、彼女はわざわざ見舞ってくれた。

映画ファン垂涎のエピソードもいくつも出てくる。

シチリアロケに行きたいと粘るコッポラ。ラディは機材屋に次回のオフアーを約束して値切り、ロケ費を捻出した。この手は日本でもよくある。但し約束は大抵守られないが。シチリアを少人数のロケ隊がワンボックスカーで回る。どこかのネット配信大手みたいに、じゃぶじゃぶ金さえ使えばいいわけではないと分かる。

終局上層部押し付けのボスターでもめ、お決まりの「長過ぎるから切れ」と言われるが、アリ・マッグローをステイブ・マッククインに寝取られた傷心のエヴァンスが復活、エディたちの窮地を救う。めでたしアカデミー賞作品賞を受賞するも、ラディは『PART2』（74）の製作から抜け、自身の企画『ロンゲスト・ヤード』（74）に向かう。

エヴァンスは表題の台詞や「観客が見たいものでなく、見るべきものを追求しろ」と名言を吐く。どこかの国のプロデューサーに聞かせたい。

せきかわ・なつお 1949年、新潟県生まれ。作家。代表作に『海峡を越えたホームラン』（双葉社／第7回講談社ノンフィクション賞）『坊っちゃん』の時代』（双葉社／谷口ジローと共作・第2回手塚治虫文化賞）。本連載を元にした『昭和的』（春陽堂書店）好評発売中！

N'S COLUMN

43

西岡琢也

「簡単な仕事なら、誰でもやってるさ」とロバート・エヴァンスは言った。

にしおか・たくや 1956年、京都府生まれ。脚本家。代表作に『ガキ帝国』『TATTOO（刺青）あり』『沈まぬ太陽』『はやぶさ〜遙かなる帰還』、TVドラマ『京都迷宮案内』シリーズ、「返還交渉人」など。2026年『幕末ヒコクラテス』公開予定。えうご期待！

緒に映画を見る。サブスクで、シネコンで、名画座で。シネコンは人が多すぎるし、音もうるさいと文句を言い、下高井戸シネマや早稲田松竹には、ポップコーンが売ってないと言って息子は不満そうだ。

小学2年生が読める漢字は、少ない。だから一緒に吹替版を観る。わたしは、日曜洋画劇場や金曜ロードショーの吹替版の映画を観て、映画を好きになった。いま息子と、日本語をしゃべるイーサン・ハント、日本語をし



イーサン・ハントは
いつもそばに
なすのに絶対
死なないから
好きだよ
息子

やべるインディ・ジョーンズ、日本語をしゃべるピーター・パーカーを一緒に観ている。

今年の夏、息子と一緒に、台詞のない映画をふたつ観た。

一つ目はAmazon Prime Videoで『Flow』。

前回に書いた飼猫のシローが亡くなる10日ほど前、冷房の効いたリビングで、調子の悪い猫の様子を気にしながら観た。夏休みが始まったばかりの息子が「この黒猫ちゃんの映画、観てみようよ」と言ったのだ。

人間は一人も出てこない。あるのは動物の声、動く水、風と植物の音。

どんな映画が知らずに観たけれど、観終わったあと、しばらく話が止まらなかった。

鯨や鳥の意味はなんだろうか、この映画はどのくらい未来の話だろうか、それとも過去か、人間はどこに行ってしまったのか。もしかしたら動物は、目だけで会話できるんじゃないかな。

あ、そうか、だからこの映画は台詞がないんだね。と息子は言った。

けっこうコワい映画にも感じたので、それを尋ねると「どこがコワかったの? おもしろい映画だったよ」とあっさりした返事。大人のわたしは、人間の不在が恐ろしかった。

二つ目は『ロボット・ドリームズ』。昨年の秋の公開時に見逃し、春頃の下高井戸シネマでの上映を見逃し、夏になってようやく早稲田松竹で観ることができた。

孤独なドッグと、明るいロボット。ひと夏の思い出。台詞がない代わりに、音楽がずっと耳に楽しい。ロボットの胸のラジカセから流れるEarth, Wind & Fireの『September』。

15 映画館の椅子に

My Kid's Diary

文と絵 赤波江春奈

踊るドッグとロボット。

粗暴なウサギたちの登場に、息子は憤り、声を出して泣く。ドッグは喪失をうめるため、新しいことに挑む。スキー、風揚げ、釣り。全然うまくいかない。そんなにすぐに、回復なんかしない。

わたしは死んだ自分の猫を想いながら観ていたのだけど、途中から堪えられなくなってしまった。「お母さん、シローのこと考えて泣いてる?」と耳元で囁く息子。

映画館の椅子に身をまかせてみれば、ほんのちょっと気分がましになることがある。映画を理由にして、泣けばいいのだ。将来、息子が悲しくて苦しくて、どん底の気持ちになった時、そんなことを思い出してくれたらいいのだけれど。

息子が『September』を気に入ったと言うので、映画館を出てすぐにスマホを開き、Apple Musicで聴く。早稲田松竹から高田馬場駅までの道で、帰宅後の風呂の中で、寝る前の布団の上で「バ〜ドゥダ〜バ〜ドゥ」と歌って踊った。あつい夏の夜だった。



たんげ・きょうこ 名古屋生まれ。愛知県立芸術大学デザイン科卒業。TIS会員。2012年講談社出版文化さしえ賞。新聞、書籍、雑誌、パッケージ、広告、webなど幅広く活動中。

うおずみ・やすこ 1977年、兵庫県姫路市生まれ。Umwelt Textiles & Objects店主。学生時代にテキスタイルを学ぶため、デンマークへ留学。帰国後、古美術店に勤めたのち2012年、京都・夷川通にUmweltを開く。



直径 6.5cm 高さ 7.5cm

〈後〉クルミの樹皮などで編まれた籠
デンマーク製 直径 10cm 高さ 15cm

魚の環世界 38

魚住寧子

タイトルレタリング……ヨコカク(岡澤慶秀)

ウンベルト Umwelt Textiles & Objects
604-0962 京都市中京区夷川通御幸町
西入達磨町588-1

朝井まかてさんの『実さえ花さえ』のカバー。ゲラを読み、出てくる植物名をピックアップ。酒井抱一らによる江戸時代の草花の版画集『四季の花』(青幻舎)から、それらの植物を選び、3~4つを組み合わせて、いくつか案を作りました。どの草花の絵も美しく、組み合わせを考えることは、贅沢で楽しい時間でした。『キテレツ絵画の逆襲』のカバー表4は、小牧源太郎『ラディオラリア』。花のように見えますが、海洋プランクトンらしいです。黄色の小さい顔が、中央で輪になっている。表情がみんな違う。不気味で愉快でキテレツ! わたしのベスト・オブ・キテレツ絵画です。(赤波江)

オリジナリ
41
Originally
December
2025

2025年12月15日発行 〈ロゴデザイン〉ヨコカク 〈編集・デザイン〉赤波江春奈・日下潤一 〈印刷・製本〉グラフィックス
〈発行〉ビーグラフィックス ©B GRAPHIX 2025, Printed in Japan 【無断転載禁止】 お問い合わせ=akabae@bgx.jp

◆Web = bgx.jp ◆Twitter & Instagram = @bgx_book_design ◆日下潤一のブログ = www.bgx.jp/blog/
「オリジナリ」はBGXが毎月発行するフリーペーパー/100部発行

◆ロンドンブックス(京都・嵐山) ウンベルト(京都・夷川) フラヌール書店(東京・不動前)に10部ずつ、
古瀬川珈琲店(東京・神保町)に5部、置いています

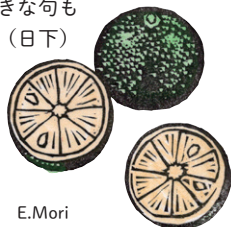
Gunnar Nylund (グナー・ニールンド/スウェーデン/1904-1997) によるストーンウェア(珐瑯器)のうつわ。スウェーデンのRörstrand(ロールストランド)窯で1950年代に作られました。紫色の釉薬と手のあとが感じられる、線描きのグリッドが印象的です。

ニールンドは、アーティストの両親が学んでいたパリで生まれ、その後コペンハーゲンやヘルシンキに移り住みながら陶芸や建築を学び成長します。彫刻家だった父から手ほどきを受けた動物のオブジェづくりも得意でした。グナー・ニールンドが携わった陶磁器には、デンマーク製(Bing & Grøndahl, SAXBO, Nymölle)とスウェーデン製(Rörstrand)のどちらもあるのがユニークなところですが、いずれの窯でも釉薬の研究に心血を注ぎました。この珍しい紫色の釉薬にも彼のこだわりが垣間見えます。

ところで、私は紫という色が幼い頃から苦手でした。その意識を変える出来事があったのはデンマーク留学時のこと。あるお店で見つけた手編みの手袋がきっかけです。それは茶色に白の編み込み模様のある毛糸の手袋でした。寒い日だったので買ってそのまま身につけ外に出た途端びっくり、茶色だと思っていた部分が実は鮮やかな紫色だったのです。店内が薄暗かったせいか、いい茶色と気に入ったのが、よりによって苦手な紫。返品しようかと迷いましたが、とにかく寒かったので帰宅し、ためつすがめつするうち「これはこれで悪くないかも」という気がしてきました。「色が絶えず欺く」と綴ったヨゼフ・アルバースの言葉を思い出しながら。あのときすぐに手袋を返品していたら、このニールンドの珐瑯器に手することはきっとなかったでしょう。ささやかだけど大切な経験だったと思っています。

今月は国立ハンセン病資料館の展示のデザインに頁を譲り、私の連載を休むつもりが、伊野さんがご多忙で休載。『ウェスカ―三部作』の続きを書く。朝井まかてさんの『実さえ花さえ』の文庫新装版。ご本人の希望で、酒井抱一、鈴木其一、中野其明の『四季の花』から絵を使うことができて嬉しかった。最近読んだ北大路翼の句集『給食のをばさん』。小学校の給食調理員になった俳人の日記形式の俳句一年分に給食のメニューとその日の短いコメントで構成。ニトリルを知る。〈蜘蛛潰しニトリルをすぐ取り換ふる〉〈驚いて熊も吐き出す冷たさよ〉(冷凍の鮭)。好きな句も多いし、句集のスタイルが面白い。(日下)

今月のあとがき



E.Mori